

間藥ノ利用研究ノ盛ンナル今日博士ノ如キ大家ノ名ニヨリスノ如キ鹵莽ノ書ノ出現ヲ見ルハ蓋シ昭代ノ不祥事ニシテ獨嘯菴先生ノ語ヲ借りテ言ヘバ不知不識賊人通計之於日日三五人者蓋不爲少生涯則幾千人乎ノ感ナキ能ハザルナリ

東都植物分類ノ學ニ從フモノ乏シカラズ之ヲ東大ニ需ムレバ牧野、中井ノ碩學アリ民間亦武田久吉氏ノ如キ偉材アリ先生或ハ先生ノ名ヲ借ル者此著ヲ作スニ當リ預メ是等ノ士ニ諮ルノ勞ヲ吝ムコトナカリセバ則チ此書恐クハ何等私議ヲ許サルモノトシテ東都ノ紙價ヲ高ムルニ足ルモノトナリシハ敢テ吾人ノ疑ハザル所ナリ、而カモ事實上ノ著者ガ此點ニ留意セザリシハ誠ニ千秋ノ恨事ト謂フベシ

以上言フ所抽象的ナリト雖誌面狹隘ニシテ具體的ニ指摘スルヲ容サズ然リト雖私議スベキ事項ノ極メテ多キハ更メテ言フマデモナシ發行者吐鳳堂ハ宜シク富士川先生ノ名譽ノ爲メ併テ本邦學術ノ權威ヲシテ失墜セザラシメンガ爲メ市上ニ流布スル殘本ヲ收集メ之ヲ秦火ニ付スルノ英斷ニ出ヅルト同時ニ紙型ヲ改訂シ更メテ先生ノ關ヲ請ヒ余ノ如キ白面ノ書生ヲシテ一指ヲダニ指ス能ハザラシムルヤウ適當ノ手段ヲ講ズベキナリ是レ發行者ノ執ルベキ當然ノ處置ナリト信ズ

試ミニ數例ヲ左ニ列記スレバ [*Euphrasia officinale* L. コハメグサ] 實ハこゝめぐさノ一種ニテ日本ニ無キモノ、 [*Betula alba* L. 白樺] 實ハ日本ニ無キモノ、 [*Polypodium vulgare* L. オシヤゴシベンダ] 實ハえぞでんだナラザルベカラズ、おしやごじでんだハ日本ノ特産ヲアツテ學名ハ *Polypodium japonicum* Maxon. ナリ、 [*Gentiana lutea* L. 龍膽] コノ植物ニ此漢名ハ不當、 [*Pimpinella saxifraga* L. 地榆] 學名ハ繖形科植物ニテ漢名ノモノハいばら科 (薔薇科) ノ植物、 [*Sambucus ebulus* L. 蒴藋] コノ學名ノモノ日本ニ無シ、以上十四頁マデニ散見セシモノ、以下略ス

○いちぬがしノ實カラ製シタ珍食品

熊本縣立人吉高等女學校 前 原 勘 次 郎

肥後ノ人吉町附近ノ地デハいちゐがし(穀斗科ノ *Quercus grisea* Blume)ノ實カラ莧弱様ノモノヲ製スル
いちゐがしノ當地方土言ハいつちがし、いつちのきト呼ンデキルガ其果實ハ通常しゐのみ(椎ノ實ノ義)ト稱
ヘ稀ニかしのみトモ云ツテキル(真正ノしひノ實ハこじゐ即チ小椎ト云ツテキル)ソシテコノいちゐがしノ實
カラ製シタ莧弱様ノモノヲしひごんにやく(椎莧弱ノ意)ト云ツテキル
椎莧弱ヲ製スルニハ (1)果實ヲ厚皮ノマ、白ニ入レテ搗キ碎イテ粉ニスル (2)ソレヲ布ノ袋ニ入レ水ノ中ニ浸
シテ揉ミ出シ滓ヲ除ク (3)コノ浸出液ヲ瓶ニ入レテ靜カニ放置スル (4)コノ上澄ヲ除キ再ビ水ヲ加ヘルコト朝
晝夜ノ三回デコレヲ約四日間ツバケル (5)コノヤウニシテ探ツタ沈澱物ニ少量ノ水ヲ加ヘテ煉リモロブタニ入
レテ固マラセル、サウスルトとてん様ノモノガ出來ルコレガ即チしゐごんにやくデアル
椎莧弱ハ適宜ノ大サニ切り酢醬油ヲ加ヘテソノマ、食フノデアル

○斷 枝 片 葉 (其二十二)

牧 野 富 太 郎

●太郎平草 或人が愛媛あやめヲたるへえさうト呼ンデ居タノデ是レハ多分太郎平トデモ云フ昔ノ植木屋デ
モアツテ其レガ此草ヲ世ニデモ出シタノ歟ト思ツテ居タラ何インノ事ダ其レハ誰ゆゑさうノ訛リデアッタ此た
れゆゑさうハ伊豫腰折山ノ名産デ可憐ナ小キあやめデアル又豊後由布岳ナドニモ多イ之レヲ愛媛あやめト名ケ
シハ私デ當時其名ガ分ラナカッタカラサウ命ジタノデアル(松山名物名所ノ俚謠ニハこかさつばたトアルガ今
ハ此名ハ同屬中ノ別ノ品種ノ名トナツテ居ル)朝鮮滿洲方面ニ多キ品デ *Iris Rossii* Baker. ノ學名ヲ有スル
●白玉かづら最北ノ産地ト其和名ノ意義 しらたまかづらハあかね科所屬ノ一常綠藤本デ *Grunitea*